

## 脱☆不満だらけのナースのお仕事

綱村麻岐<sup>1)</sup> 白崎悦子<sup>1)</sup> 牧野香織<sup>1)</sup> 森川靖子<sup>1)</sup>  
三田美穂<sup>1)</sup> 東 裕作<sup>1)</sup> 荒川 仁<sup>2)</sup>

要旨：当病棟の日勤帯での直接看護時間と業務満足度の関係について検討した。直接看護時間と業務満足度には相関関係が認められ、業務改善に取り組んだ結果、直接看護時間が増え、業務満足度も向上した。

【Key words】直接看護時間、間接看護時間、業務満足度

### 緒 言

当病棟は整形外科急性期病棟で、手術を行う患者様がほとんどであり、全身状態が安定した時期に回復期病棟に転出する体制をとっている。そのため手術・入退院件数が多く、時間内に業務をこなすことが精一杯で、患者様と直接関わる時間が少なく不満を抱いていた。そこで患者様との関わりを増やすために業務改善に取り組んだ。

### 方 法

- ① 当院で行った過去4回分のワークサンプリング(※)と、看護師業務満足度のアンケート調査を行った。ワークサンプリングを、直接看護時間と間接看護時間に分け、当病棟と全病棟を比較した。
- ② 直接看護時間と業務満足度の相関をピアソンの相関係数を用いて検討した。
- ③ 直接看護時間が少ない要因を検証し、間接看護時間の中から改善できる項目を選出し、業務改善に取り組んだ。
- ④ 業務改善前後でワークサンプリングとアンケート結果を比較した。

※作業の現場状況を観測し作業ごとの構成比率や、所要時間を統計的に分析し、統計結果から問題点を解明し効率よく作業が行えるようにすることを目的とした方法

### 結 果

- ① 過去4回分のワークサンプリングと業務満足度のアンケート調査の結果、当病棟は直接看護時間が少なく、業務満足度も最低であった。また、直接看護時間と業務満足度には相関関係が認められた。(図1)
- ② 過去4回分のワークサンプリングから当病棟と全病棟の直接看護時間の平均時間を比較すると、当病棟の直接看護時間は52.21% (4時間26分)、全病棟の直接看護時間の平均は57.06% (4時間51分)であり、その差である4.85%を目標値に設定した。(図2)
- ③ 直接看護時間が少ない要因として、デスクワークが多い・入院の受け入れや手術準備に時間がかかる・動線が長いなどの無駄な間接看護時間が多い事が考えられた。よって、間接看護時間を削減できるように業務改善に取り組んだ。業務改善前後において間接看護時間の割合を比較し、業務改善後にワークサンプリング調査を行った結果、3.67% (18.71分)の削減となった。(図3)
- ④ 業務改善前後においてワークサンプリングとアンケート結果を比較すると、業務改善後、直接看護時間が7.22% (36.82分)増加し、目標である4.85%を大きく上回った。  
また、当病棟看護師の業務に対する満足度も45%から60%へ向上した。(図4)

<sup>1)</sup> 福井総合病院 11病棟

<sup>2)</sup> 福井総合病院 整形外科  
(受付日 2008年3月)

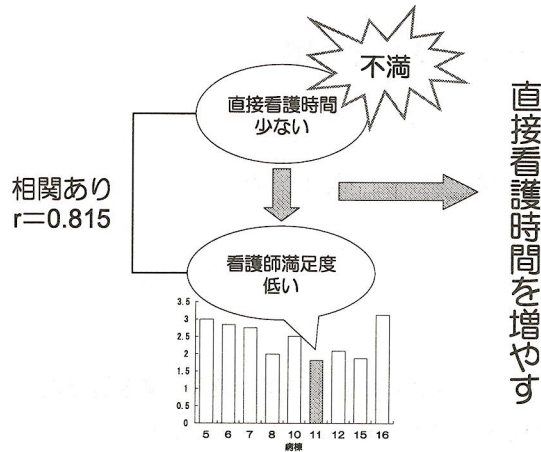


図1：看護師業務満足度

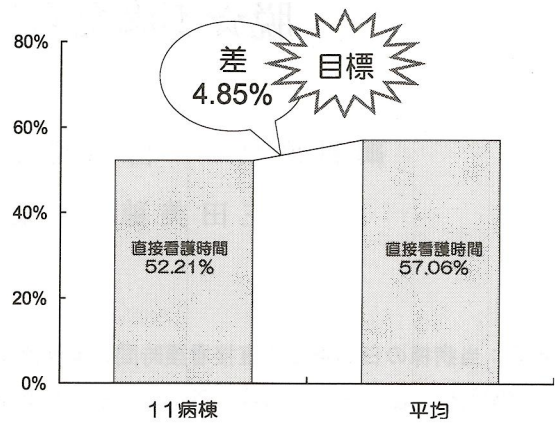


図2：ワークサンプリングにおける直接看護時間

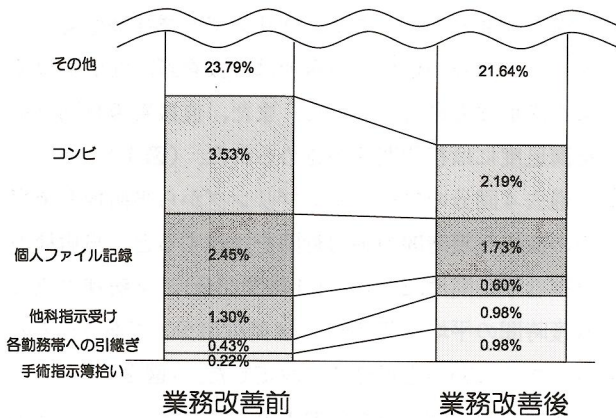


図3：業務改善前・後で間接看護時間の割合を比較

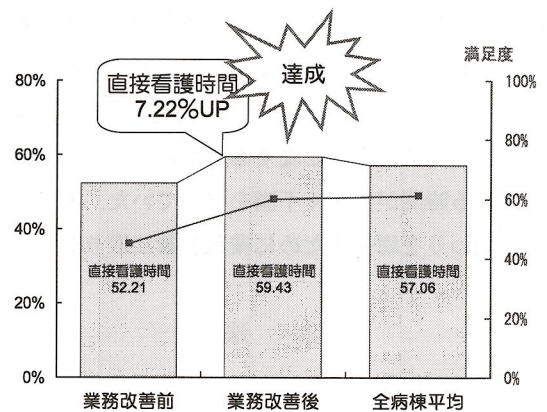


図4：業務改善前・後でワークサンプリングとアンケート結果を比較

## 考 察

無駄な間接看護時間削減のため、業務改善に取り組んだ結果、直接看護時間が増加し、業務満足度も向上した。

直接看護時間が増加することで、患者様と接する時間が増え、転倒などの安全面の充実や、よりよい看護ケアを提供でき、更には患者様の満足度の向上につながるのではないかと考える。

今後も直接看護時間を増やせるよう業務改善に取り組んでいきたい。

## 文 献

- 1) 井上富美, 溝渕佐緒, 山崎美紀子ら：看護業務に対する時間の活用と満足感に対する評価 第32回日本看護学会論文集 看護管理 2001 p 79-81
- 2) 大川操, 山下久美子, 西村登志子ら：看護職員と職務満足と看護観との関連 第32回日本看護学会論文集 看護管理 2001 p 87